

全国的な風疹の流行について

～予防接種で先天性風疹症候群から赤ちゃんを守りましょう～

風疹が今全国で大流行しています。風疹患者の報告が2008～2011年は全国で87～378例でしたが、2012年には2392例となり、2013年は6月19日時点で10822例と、前年を既に大きく超えています(図1)。2013年は首都圏から急速に全国へと拡大しています。患者の年代をみると、特に男性は20～40代の報告が多く、女性では20代の報告が多くなっています。沖縄県では2012年に46例、2013年は6月19日時点で38例(男性25例、女性13例)の報告があります。患者の傾向も全国と同様となっており、今後注意が必要です。

風疹は、風疹ウイルスによっておこる発熱、発疹、リンパ節の腫れを主症状とする病気です。風疹の最大の問題は、妊娠初期の妊婦が風疹にかかると、赤ちゃんにも感染し、白内障、先天性心疾患、難聴などの様々な症状をおこす先天性風疹症候群を発症するおそれがあることです。風疹にかからないためには、ワクチンによる予防接種を受けることが重要です。風疹の予防接種は1977年8月に女子中学生を対象に始まりましたが、その後、対象や接種時期の変更があったため、年代によってはワクチンの接種率に差があります。また、妊婦は風疹の予防接種を受けることができませんので、注意が必要です。

先天性風疹症候群は1999年4月の感染症法施行後、全国では2011年までに19例の報告がありました。2012年は5例、2013年は6月12日までに6例の報告がされています(図2)。沖縄県では1999年4月以降報告はありませんが、過去には1964～65年に風疹の大流行があり、408名の先天性風疹症候群の子が出生したことを忘れてはいけません。

2011年に当所で実施した沖縄県内の風疹抗体保有状況調査の結果を図3に示します。抗体を保有しているということは、風疹ウイルスに対する免疫力があるということです。調査から、20歳以上の女性で抗体を保有していない人が数%いること、20歳以上の男性は同年齢群の女性より低い傾向にあること、特に20～24歳の年齢群では80%と他

の年齢群よりも低いことが分かりました。

風疹はワクチン接種により予防できる病気です。風疹は先天性風疹症候群を発症するおそれがあることから、女性は妊娠する前に予防接種により十分な免疫を獲得しておくことが重要です。また、周囲の方たちも風疹を流行させないために予防接種を受けることが強く望まれます。【衛生科学班】

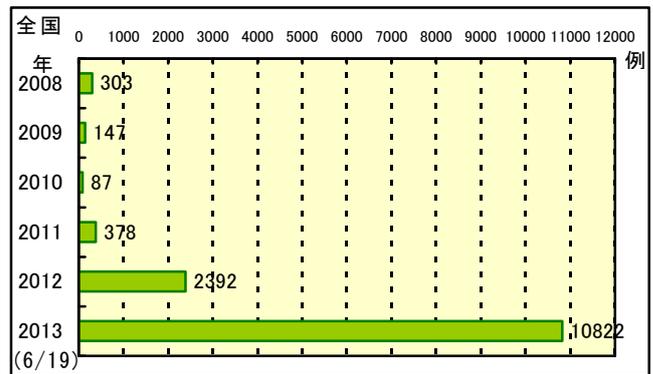


図1. 風疹患者の報告数 [2008-2013年]

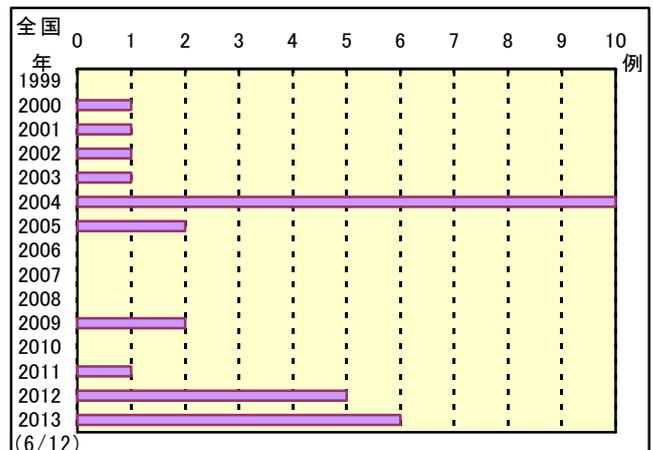


図2. 先天性風疹症候群の報告数 [1999-2013年]

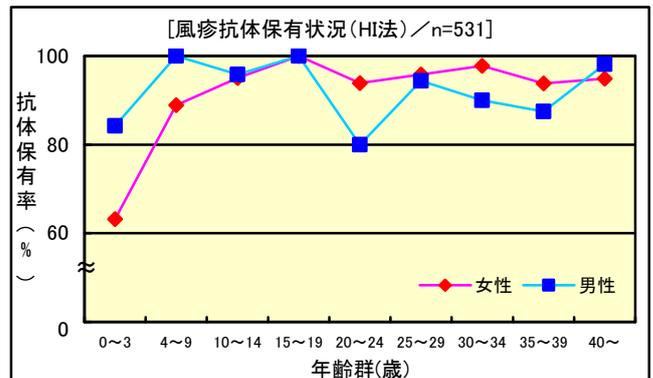


図3. 沖縄県の風疹抗体保有状況 (2011年)